

川端正和氏文書(3)概要

- 1: 文書群番号 101007
- 2: 文書群名 川端正和氏文書(3)
- 3: 出所 川端正和家
- 4: 家業・役職等 橘土地区画整理組合副長ほか
- 5: 地名 摂津国川辺郡水堂村／兵庫県川辺郡水堂村／川辺郡立花村水堂／尼崎市水堂／尼崎市水堂町ほか
- 6: 行政区分 (1)村の大部 池田重利領／尼崎藩領／旗本青山氏(幸通系)知行所／兵庫県第10区／三反田組戸長役場／立花村／尼崎市 (2)村の小部 幕府領・大坂城代領／武蔵国忍藩阿部氏(忠吉系)領／幕府領／尼崎藩領／(明治以降は(1)と同じ)
- 7: 歴史
川端家は代々、水堂村のうち小路村(少路村とも表記)に居住し、近世以来酒造業を営んでいた。特に川端又兵衛・喜一郎父子の頃(近世後期～近代)が最も盛んであったようで、近代の酒造事業の詳細は不明であるが、少なくとも明治期までは東京向けを含め酒造業を続けていたようである。近代に入っては、水堂村戸長、水堂区長、立花村村会議員、水堂小路町内会長、橘土地区画整理組合副長等を務めていた。
昭和8年(1933)11月橘土地区画整理組合が設立され、七松・水堂・三反田にまたがる18万5,700坪(約61.3ha)の区画整理を実施した。事業の目的は同地域の都市開発、および立花駅(東海道線京神間の電化にともない七松・水堂地内に新設、昭和9年7月開業)の敷地準備・工事費用捻出であった。当時この地域は芋畑と水田が一面に広がる農村地帯で、区画整理の施行が全国的にもまだ少なく、整理にともなう所有地減少に地元住民の反対も強かった。昭和10年10月に事業は完成(換地処分の登記は14年10月完了)、駅の南北に市街地が形成された。組合は12年に上水道も敷設、1300戸余に給水し(15年頃)、区画整理組合経営の上水道としては全国唯一であった(19年尼崎市が買収)。
- 8: 伝来 本文書群は川端正和氏文書(1)(2)と本来一体をなすものである。平成13年(2001)6月11日に川端章氏より借用、同16年11月に整理・目録作成を完了。同19年に寄託された。
- 9: 史料入手先 川端章氏(原蔵者子息)
- 10: 点数 7点(目録件数5件)
- 11: 年代 昭和9年(1934)～同14年(1939)
- 12: 構造と内容 橘土地区画整理事業(昭和8年・1933認可)に関する、土地宝典・区画整理図・土地所有者名簿。
- 13: 関連史料 川端正和氏文書(1)(2)、松井重輔氏文書、水堂農会文書、水堂須佐男神社文書
- 14: 閲覧条件 原本
- 15: 作成者 松迫寿代